



熊谷市長 富岡 清

HOSPI

歴史と文化とおもてなしの心

熊谷市は、古くは江戸時代に中山道の宿場町として栄え、現在も鉄道や車による交通網が発達し、県北における中心都市として順調な歩みを進めています。国宝に指定されている^{かんきいんしやうてんどう}歓喜院聖天堂を始め、関東一の^{きおん}祇園と称される熊谷うちわ祭や、「日本さくら名所100選」の熊谷桜堤など、様々な魅力があります。

また、スポーツによるまちづくりにも力を注いでおり、2019年に世界中が興奮と感動に包まれたラグビーワールドカップ2019™では、開催都市の一つとして3試合が行われました。熊谷のおもてなしは多くの方々から称賛を頂き、大会を通じて得られた世代や国籍を越えたスポーツによる一体感は、レガシーとして受け継いでいくべき文化だと感じています。

これからも、オール熊谷でワンチームとなりスクラムを組む「スクラム！クマガヤ」のスローガンの下、輝く未来へ向けて更なる魅力の創出に取り組んでまいります。



「スクラム！クマガヤ」で、 協働のまちづくり。

スポーツを通じたパートナーシップ

熊谷市では、平成18年に「熊谷市スポーツ熱中都市宣言」を行い、【実践】【応援】【協力】の合い言葉の下、一人ひとりがスポーツに熱中し、それぞれのスタイルに応じてスポーツに関わる社会の実現を目指してスポーツ振興施策を推進しています。

その中で、関連団体との連携・協働を進めており、ホームタウンとして地域に根付いた活動をするスポーツチームと協力しながら、スポーツによるまちづくりを進めています。